



陸自白老駐屯地が65周年。アイヌ文化の復興と発展・ウポポイ（民族共生象徴空間）が12日で開業3周年に。8日に記念式典を催し、内閣府特命担当大臣や道知事、道アイヌ協会理事長ら関係者約120人が、コロナ後の新たなスタートとして、一層の取り組み強化を誓いました。町主催のポロトミンタラフェスでも開業3周年を記念する企画でにぎわいました。そして9月29日には、来場者数100万人を達成。記念セレモニーで節目を祝いました。聞こえない人の日常生活



7月

観光入り込みがまとまり、220万人と発表。14年ぶりの200万人超えに、明るい兆しを見せました。

ウポポイが開業3周年。来場者100万人を達成

活や手話言語を理解して地域で支え合うことを目的とした「白老町手話言語条例」を制定。この後、町教委が町内NPO法人の協力を得た教室を開催し、小中学校の教育現場で広く普及が進められました。アヨロ海岸の清掃活動に学校を挙げ長年取り組む虎杖小学校が、海上保安庁長官表彰を受賞。来年4月の供用開始を目指す「白老生活館」改築工事は31日、アイヌ伝統儀式「コチセコテノミ」（地鎮祭）を執行し、工事の安全や無事完成を祈りました。



8月

中学生以下の子ども医療費の窓口負担を無料化。窓口での一旦支払いがなくなり便利に。便利と言え、町公式ホームページ

中学生以下の子ども医療費の「窓口負担」無料化

1ジがりニューアルしてスマホ対応に。町文連協主催の「第1回まちはキヤンバス」チヨークで「アート」が催され、子どもたちが駐車場にお絵描き三昧。町はスポーツを通じた魅力ある地域づくりを目指し、札幌の総合型地域スポーツクラブと包括連携協定を締結。始動開始。姉妹都市・つがる市の子どもたちが来町、体験を通して白老の自然や文化を学び、夏を満喫しました。

9月

白老文化観光推進実行委による「ルーツ&アイツ」が3年目に。町内各所で展開された企画のうち、旧社台小で開催された「田湯加那子作品展」が話題に。2年に一度の町民意識調査の結果がまとめられ、「生活満足度」は35.3%。評価は「いかに」。全盲の高橋美雪さん（北吉原）が詩吟全国大会で見事、優勝。クルーズ船「につぼん丸」が令和4年に次ぎ2度目の白老港入港。セレモニーや白老PRで歓迎。町立病院改築で起工式。いよいよ本格工事の

町立病院改築で起工式。いよいよ工事がスタート



スタートに、町民の期待が膨らみました。

10月

町長と直接の意見交換の場・タウンミーティングが3地区で初開催。参加町民65人が町長と「こんな町になつたらいいね」と考えました。白老町議会議員選挙が29日行われ、定数14に16人が立候補し、新人5人が当選。会派構成などで新たな風が吹き始めました。また

白老町議会議員選挙行われる

11月

同選挙では、「投票したいが交通手段がない」などといった方を対象に投票所への無料送迎車両の運行を試験実施しました。

白老のこの一年を振り返り、皆さんのような感想をお持ちになったでしょう。大きな出来事や小さいながら変化を感じさせる出来事などがあつたと思います。中でもこれまでになかった新たな動きがさまざまな分野で感じられました。来年は町制執行70周年の節目。これら生まれた芽をどのように育てていくのか、が問われる一年になると思います。迎える新年は皆さんにとって良い年になるようにお祈りいたします。（竹）

白老牛銘柄推進協議会が総会を開き、コロナ禍などで4年連続中止となつている「白老牛肉まつり」の再開について、開催方法の見直しなどアンケート調査を行い検討を始めた。地域おこし協力隊が「サフィールヴァ白老マルチスクール」を開校。小学生と幼児を対象に、一度に複数種目のスポーツに親しめる環境づくりを始めました。